

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

呉市立明德中学校区 校番20 学校名呉市立明德中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	個別最適な学びと協働的な学びの充実	① 教科等の本質に迫る「個別最適な学び」の充実。	指標①について、生活アンケートの肯定的評価が97%であった。各生徒に対する、個別の学びの充実を念頭に置いた授業展開をしていることが、この結果に繋がっていると考える。	①今後も「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還の充実を図る。また、単元テストや定期テストの分析を緻密に行い、「個別最適な学び」を深めていく。
			指標②について、生活アンケートの肯定的評価が90%であった。話し合う活動を通して、生徒が自分の考えをきちんと言葉で表すことができるよう、意識し、工夫していることによるものだと考える。	②今後も各教科で適切に話し合う活動を取り入れ、生徒が自分の考えを深めたり広げたりでき、それをきちんと言葉で表すことができるよう、授業改善を進めていく。
			生活アンケートの肯定的評価は82%であった。目標には届いていないが、昨年度(2学期75%)と比べ読書習慣が定着しつつある。落ち着いた朝読書の実施や委員会・司書の先生による読み聞かせ等の取組が活性化につながったと考える。	引き続き委員会を中心にした図書館利用の活性化や読み聞かせなど、図書に接する機会を増やす取組を継続していく。
**	地域の構成員の一人としての参画意識及び自己有用感の育成	① 地域の構成員の一人としての参画意識の育成	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある生徒の割合は79%だった。昨年度に比べると、かなり増加している。ダンス「音戸の舟唄」や防災学習、地域調べ学習など、総合的な学習の時間での取組の成果であると考えられる。	引き続き、総合的な学習の時間等を通じて、自分が地域の構成員の一人であることを意識させるとともに、地域の行事や地域清掃等のボランティアへの参加を呼びかけていく。
		② “つながり”を通じた自己有用感の育成	自分にはよいところがあると思っている生徒の割合は、85%だった。この結果は、SEL(社会性や情動の学習)や道徳の授業に加えて、日頃の教職員の生徒への声かけの成果であると考えられる。また、学級委員が帰りの会に行っている「いいことみつけ」も効果的だったと考える。	引き続き、SELや道徳の授業を通して、自分のよさを考えたり、他者のよさを評価したりする機会をつくる。また、教職員が生徒のよいところを見つけられるよう、生徒と過ごす時間をとるよう意識していく。
*	安心・安全な教育環境の整備と防災教育の深化	① 自分の命は自分で守る力の育成	生活アンケートの肯定的評価は97%であった。目標値100%には届いていないが、「呉市学校防災週間」の取組や「総合的な学習の時間」の取組により確実に意識や行動力は高まっていると考える。	今後も、地震津波の避難訓練などで、家庭や地域を巻き込んだ取組を行い、実践力を高めていく。
		働き方改革の推進	指標の「時間外在校等時間が月45時間を超える教職員数」については、現状では、目標値を達成していない状況である。また、「業務の中で充実感を得ていると感じる教職員の割合」についても、88%と昨年度を超える数値になっているが、目標値を達成できていない。これらは、教職員に長時間勤務の削減への意識はあるものの、本年度新しく導入された校務支援システムへの対応に時間を要したことや、コロナウイルス感染症の5類移行を受けた業務の再開等が起因するものと考えられる。	下半期においては、従来の取組を新たに視点で見直すなど、業務の精選を図るべく教職員間で協議等を進める。その中で、業務内容の効率化に向けた新たなアイデア等を出し合い、共有化を図り、取組を進める。